



東京PCB廃棄物処理事業だより (No.38)

東京PCB廃棄物処理施設の運転状況について

当事業所での平成26年4月～6月の処理実績は下表のとおりです。

廃棄物の種類	4月～6月 処理台数	操業開始からの 処理台数の累計
トランス類	38台	2,497台
コンデンサ類	1,030台	29,908台

* 連結コンデンサは内部に含まれる台数でカウントしています。

* 低濃度PCB廃棄物については平成25年6月に処理を完了いたしました。

東京PCB廃棄物処理事業環境安全委員会が開催されました。

平成26年6月11日、江東区東陽町にて第31回環境安全委員会（臨時）（委員長：中杉修身 元上智大学大学院教授）が開催されました。今回は、5月13日に国の「第12回 PCB廃棄物適正処理推進に関する委員会」が開催されたことにより、臨時に開催されたものです。

環境省より下記の報告がなされました。

（１）今後の処理体制について

高圧トランス・コンデンサ等及び安定器・汚染物については、1日でも早期に処理をすること、5事業所の長所を生かし処理能力を相互に活用すること、安定器・汚染物の処理については北九州事業所及び北海道事業所を活用すること、最長でも平成37年度までに処理を完了すること。

（２）主な取組

①安全第一とした適正かつ確実な処理

施設の経年劣化を考慮し、長期設備保全計画の策定と、これに基づく設備の点検・補修・更新、日常点検を行う。

②一日でも早い処理完了に向けた処理促進策

都道府県市、国、JESCO、電気保安関係の事業者等が協力し、未処理機器の保有者台帳の作成、処理時期の確認及び計画的処理完了期限内の処理に向けた必要な指導を実施する。

委員からは、処理物の地域間移動等に関するご意見、ご助言、ご質問等がありました。

いただいた貴重なご意見・ご助言等を施設の運営・管理に反映し、引続き安全・確実な処理を行なってまいります。



環境安全委員会の様子

ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業基本計画の変更認可について

国が定めるポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画が平成26年6月6日に変更されたことを踏まえ、当社の「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業基本計画」についてもこれに従った変更を行い、平成26年6月17日付で環境大臣の認可を受けました。

変更の主な内容

1. 処理体制の変更

（１）高圧トランス・コンデンサ等の一部については、従来の処理対象区域を越えて全事業所のポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処理能力を相互に活用して処理を行う体制に変更しました。

（２）安定器等・汚染物については、北九州事業所及び北海道事業所の2カ所の施設を活用し、全国の処理を行う体制に変更しました。

2. 計画的処理完了期限及び事業終了準備期間の設定

保管されている方々が当社に処理委託を行う期限として計画的処理完了期限を設けるとともに、事業終了のための準備を行うための期間等を勘案して事業終了準備期間を設けました。

なお、当社は、計画的処理完了期限内であっても可能な限り早期に処理を完了するよう取り組んでまいります。

処理施設の定期点検について

平成26年度の定期点検を5月12日から6月10日の日程で実施しました。この期間中にボイラーや電気設備等の法定点検、主要設備の定期検査及び施設が停止していなければ出来ない工事・点検などを実施しました。また継続的に安全・安定的な操業ができるよう改善工事も行いました。

(1) 安全大会の実施

定期点検作業を無事故・無災害で行うことを目指し、安全大会を実施しました。

JESCO社員及び運転会社従業員、点検・整備にあたる工事請負者などの関係者が一堂に会し、JESCO所長による安全訓話、工事請負責任者による安全宣言などを実施し、注意喚起及び安全意識の共有を目指して、全員の安全コールで締めくくりました。

期間中は、入所教育の実施や安全パトロールを強化し、定期点検作業を無事故・無災害で終えることができました。



安全大会の様子

(2) 定期点検時の設備改善等の一例

①液体酸素設備 タンク乾燥作業

液体酸素設備の液酸ポンプ内に少しずつ水分が入り蓄積していくことにより、水分は氷となって配管内部で閉塞を起こし、昇圧不良をもたらします。昇圧不良及びポンプ故障になると、水熱分解設備の運転ができなくなり操業停止となる可能性がありますので、液体酸素タンクの乾燥作業を行い、昇圧不良が起きないように整備しました。



液体酸素タンク乾燥作業の様子

②水熱分解設備 混合管交換作業



入荷した混合管



交換作業中

水熱分解設備の混合管については、肉厚測定を実施して、必要最低肉厚に達する予測計算結果が1年未満の場合には定期点検時に交換することとしています。今回は、平成25年11月～平成26年1月に肉厚測定を行った結果、全系統について、肉厚を増やす等した新型混合管に交換を行い、水熱分解処理に支障が起きないように改善しました。

安全講話の開催について



安全講話の様子

平成26年5月26日に、「H17.11.21 PCB漏洩事故 JESCO豊田事業所」と題して、当時豊田事業所副所長兼運転管理課長であった牧田東京事業所長による安全講話を開催しました。

洗浄溶剤の第1蒸留塔底ポンプの圧力計脱落によるPCB濃縮液漏洩事故の概要、原因、対策の紹介があり、特にヒューマンエラーの観点からの詳細な話がありました。

防止策として、指示・連絡の改善、教育訓練の充実、連絡網の整備等の話がありました。

百名以上の参加者全員が各自業務にこの教訓を生かし、安全・安定操業を継続していくことを誓いました。



日本環境安全事業株式会社 東京事業所
〒135-0064 江東区青海三丁目地先（中央防波堤内側埋立地内）
TEL 03-3599-6023
<http://www.jesconet.co.jp/facility/tokyo/index.html>